

# 光葉同窓会メールマガジン

<2026 年 2 月号>

224 号 2026. 2. 02 配信

2 月に入り冬も本番となってきました。世田谷キャンパスでは、後期  
期末試験や入学試験が予定され、在学生と共に昭和学園を目指す受験  
生が、冬の陽ざしで明るくもからっ風の吹く正門通りを行き交ってい  
ます。ひと口に冬と言っても、南北に長い日本列島のこと、氷点下の  
北海道から豪雪地域、気温 20 度前後の九州・沖縄まで様々。地震や山  
火事、寒波、インフルエンザ流行等のニュースもある中、各地の卒業  
生の皆様、どうぞご安全にお健やかに過ごしてください。（常任委員 山口澄子）



## ■同窓会だより

### ◇「東明忌」のお知らせ

1974 年 2 月 4 日は、1920 年に本学園を創設された創立者人見圓吉（東明）  
先生の命日です。先生は、詩人としてもご活躍されました。建学の精神「世の  
光となろう」という言葉を託し、現在も受け継がれています。学父・学母のご  
遺徳を偲んで献花くださいますようお願い申し上げます。

【献花日時】2 月 4 日（水）・2 月 5 日（木）10：00～16：30

【場 所】「先哲の碑」前（雨天時は人見記念講堂入口右手横「開講の詞」前）



### ◇ワーキングネットワーク<ハイブリッドイベント>

「その態度、カスハラですよ！」～カスハラで信頼を失わないために～

【日 時】2 月 7 日（土）13：00～14：30（受付/入室開始 12：30～）

【対象者】同窓会会員、在学生、昭和女子大学教職員

【会 場】大学 3 号館 1S02

【会 費】無料

【講 師】高田かおり氏（1981 年 生活科学卒）

※WEB 参加：ビデオ会議ツール<ZOOM ウェビナー>を使用しライブ配信いたします。

ご参加の方のメールアドレスに開催 2～3 日前までに参加 URL をお送りします。

【申込方法】QR コードからお申し込みください。



◇支部会開催予定 ・三重県支部会 2 月 17 日（火）・奈良県支部会 2 月 28 日（土）  
・岡山県支部会 3 月 8 日（日）

※お問い合わせ 光葉同窓会事務局 03-3421-7713 e-mail : [dousoukai@swu.ac.jp](mailto:dousoukai@swu.ac.jp)  
10 : 45～16 : 15 (土・日・祝日除く)

## ■広げよう光の葉

中村 明美さん(旧姓 堺) 1996年 日本文化史学科卒



### 「50代になってできた新しい目標」

昭和女子大学を卒業し、郷里の福岡へ帰って早30年。出版社で正社員として5年間働いた以外は、いくつかの行政の職場で嘱託職員として、展覧会や舞台の仕事に携わってきました。

次女が中学生になり、私は50歳を迎えるとき、30代に7年間務めた職場の再試験を受けて合格。大好きな仕事だったのですが、夜間の勤務があったため、乳児を育てながら働くのが難しく辞めた職場でした。13年ぶりの職場。昔から知っている職員ばかり。ここで定年まで頑張るぞと決意していましたが、段々、様々な事情で昔のようにうまくいかず、人間関係にも悩むようになりました。そして、復帰して3年目に入る前にストレスが限界に達し、退職。朝、ベッドから起き上がれなくなるほど首や肩の激痛があり、一日中治まりません。整形外科や神経内科に行っても治らず、痛み止めを飲んで紛らわす日々が3か月続きました。ある時、知り合いに紹介にされたリウマチ専門医を受診したところ、膠原病にかかっていることがわかりました。薬を飲み始めると、体調は順調に元通りになっていきました。

療養中、これまでの経験を活かし、リモートでもできる仕事をと考えたとき、たどり着いたのが日本語教師でした。アルバイトをしながら、思いきって日本語教師養成機関に入り学びました。日本語は母語なので教えるのは難しくないだろうと思っていたのが大間違い。日本語は複雑で奥が深く、非常に難しい言語でした。私たちは日本語ネイティブなので何も考えなくてもスラスラ話せますが、日本語学習者がきちんと話そうとすると、尊敬語や謙譲語、丁寧語を使い分けつつ、ウチとソトの関係などを考えて頭をフル回転しないといけません。加えて、文字は、ひらがな、カタカナ、漢字を覚えなければいけません。

日本語を教えるのは難しいと不安になっていたとき、養成講座の先生から「守破離\*」を大切にせよ、というアドバイスをもらいました。大学で中世芸能史を専攻していた私がここで「守破離」という言葉を聞くとは思ってもいませんでした。その先生は、狂言師・野村萬斎の大ファンだそうで、初めのうちは、とにかく授業で学んだ教授法の「型」を徹底的に守って崩さなければうまくいくと仰いました。その言葉を聞いて、心が随分と軽くなりました。そして、20代～60代の仲間とともに励ましあって勉強し、先日、国家資格の登録日本語教員の試験に合格することができました。新たな目標ができた人生に幸せを感じています。

\*剣道や茶道などで、修行の段階を示したもの。「守」は、師や流派の教え、型、技を忠実に守り、確実に身につける段階。「破」は、他の師や流派の教えについても考え、良いものを取り入れ、心技を発展させる段階。「離」は一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階。 [End]